

こんにちは、地域おこし協力隊の水谷和瑚です。会津本郷焼の技術継承をミッションに活動し、早くも3年目を迎えました。来年3月には卒隊となるため、今年も全力で取り組んでいきたいと思っています。今回は、これまでの活動を振り返りながら、協力隊としての思いとこれからのことをお伝えします。

1年目と2年目の活動を振り返る

私は、「酔月窯」の西田さんにお世話になりながら絵付けの技術を学んできました。また、技術習得と並行して、地域や都心でのイベントに参加し、会津本郷焼のPRを行ってきました。



▲一期一会のネコたちをテーマに、すべて違ったデザインを描きました。今までに描いたネコの作品は300点以上にのぼります。

昨年度の活動で特に印象に残っているのは、「ふくしまクリエイティブクラフトアカデミー」での商品開発です。アドバイザーにご意見をいただきながら商品を企画し、梱包やパッケージデザインも考えました。成果報告会ではコシノジュンコ校長から直接ご講評をいただきました。そして昨年度3月には、開発した商品が台湾の蔦屋書店でテスト販売されるという貴重な経験を行うことができました。この経験を活かし、今後も新たな商品開発に挑戦していきたいと思っています。



協力隊としての思いと、これからのこと

私は会津本郷で生まれ育ち、子どもの頃から学校の陶芸教室や「せと市」などを通じて、会津本郷焼が身近な存在でした。そのため、当時は会津本郷焼を特別なものとは思っていませんでした。

協力隊として会津本郷焼に深く関わるようになり、窯元ごとの個性や、磁器と陶器が同じ地域で作られる特徴を知る中で、その魅力を改めて実感しました。日常の中で当たり前に使っていた器が、実はとても貴重で、多くの可能性を秘めていることに大人になってから気づくことができました。



▲子どもの頃に作った手びねりの平皿。家では小物置きとして使用しています。



▲短期大学時代作成したパンフレット内の記事と本郷をめぐるツアーで案内をしている様子。

会津美里町が好きで、この町の魅力をもっと多くの人に伝えたいという気持ちは、観光を学んでいた短期大学時代から変わりません。パンフレットの記事で本郷の魅力を紹介したり、本郷をめぐるツアーを企画・実施したりする中で、改めて地元の素晴らしさを実感しました。しかし、伝統工芸やものづくりの世界では、後継者不足が深刻な課題となっています。

この課題に向き合うため、昨年度より「わの和」という屋号での創作活動をスタートしました。会津の陶芸と漆芸、両方の技術を受け継ぎ、次世代へつなげていくことを目標にしています。伝統を守るだけでなく、新しい表現や価値を生み出しながら、これからも自分なりの形で活動を続けていきたいと思っています。

今月の協力隊

みずたに わこ
水谷 和瑚

高校卒業後、地元の短期大学で旅行業や観光業について学び、観光施設に就職する。
2021年 会津漆器技術後継者訓練校にて蒔絵を学ぶ。
2023年 訓練校卒業後、会津美里町地域おこし協力隊に就任。
2024年 「わの和」として活動を始める。

